

# NBKS-002:2022「外壁用塗膜防水工法に使用する 下地挙動緩衝材の品質基準」を制定しました

## 下地挙動緩衝材とは

下地挙動緩衝材とは、アクリルゴム系外壁用塗膜防水工法において、ひび割れ部に発生する伸縮繰返しムーブメントによる防水材への影響を緩和し、防水材のひび割れ追従性を向上させることを目的としたひび割れ部に塗布する材料です。

コンクリート打放し仕上げ外壁およびモルタル塗り仕上げ外壁に発生したひび割れ部の処置は、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)に記載されているシール工法、樹脂注入工法およびUカットシール材充填工法があり、これらはひび割れの挙動の有無やひび割れ幅などに応じて選定されます。

本仕様書の4章 外壁改修工事 7節 外壁用塗膜防水材による改修では、幅0.2mm以上2.0mm未満のひび割れに対して、下地挙動緩衝材を特記として適用できることが記載されています。

下地挙動緩衝材の塗布によるひび割れ部の処置方法は、従来のひび割れ部処理工法に比べ、以下のメリットがあります。

- ・施工時の粉塵(石綿含有粉塵)や騒音の発生がありません。
- ・ひび割れ補修跡が目立たず、経年での肉痩せなどありません。
- ・ひび割れ処理の工期が短縮でき、経済的です。

## NBKS-002:2022 下地挙動緩衝材の品質基準

下地挙動緩衝材は、1992年に発行された建設省官民連帯共同研究「外装材の補修技術の開発」の成果出版物にひび割れ部の簡易な増し塗り工法として提案されました。

今回、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)に下地挙動緩衝材が記載されたことに伴い、所要の性能を明示するために、日本外壁防水材工業会は、芝浦工業大学 本橋名誉教授を委員長とし、日本建築仕上材工業会および一般社団法人日本塗装工業会からなる下地挙動緩衝材品質基準作成委員会を組織し、本規格を作成しました。

また、これと同時に、以下に示すひび割れ部の処理を行った場合のゼロスパンテンション伸び量試験および耐疲労性試験方法を規定したNBKS-003:2022「外壁用塗膜防水工法のひび割れ追従性試験方法」を制定しました。

- ・外壁用塗膜防水工法で下地挙動緩衝材を適用した場合
- ・Uカットシール材充填工法を実施後に外壁用塗膜防水工法を適用した場合

## 下地挙動緩衝材の品質

| 項目         |                           | 品質                                                      |
|------------|---------------------------|---------------------------------------------------------|
| 原料         |                           | 基材はアクリルゴムとし、鋳物質充填材や添加剤を配合したもの。                          |
| 引張性能       | 引張強さ (N/mm <sup>2</sup> ) | 0.20 以上                                                 |
|            | 破断時の伸び率 (%)               | 400 以上                                                  |
| 加熱処理後の引張性能 | 引張強さ比 (%)                 | 100 以上                                                  |
|            | 破断時の伸び率 (%)               | 400 以上                                                  |
| 付着性能       | 付着強さ (N/mm <sup>2</sup> ) | 0.30 以上、かつ、プライマーと下地挙動緩衝材界面及び下地挙動緩衝材と防水材界面の界面破壊率の和が50%未満 |
| 固形分 (%)    |                           | 表示値 ± 3.0                                               |
| 硬化物比重      |                           | 表示値 ± 0.1                                               |

## 下地挙動緩衝材の使用方法

- ・適用可能なひび割れ幅：幅0.2mm以上2.0mm未満
- ・所要量：塗膜厚0.25mmに相当する所要量以上  
 所要量は、固形分および硬化物比重から次式により求める。  

$$Q = t \times 100 / NV. \times \rho d$$
 ここに、 $Q$ ：所要量 (kg/m<sup>2</sup>)  
 $t$ ：塗膜厚さ (mm)  
 $NV.$ ：固形分 (%)  
 $\rho d$ ：硬化物比重
- ・施工方法：プライマー塗布後にひび割れ部および施工後に拡大する可能性のあるひび割れ部の延長上に50mm以上を幅50mm程度で端部に段差が生じないようにはけを用いて塗付ける。  
 ひび割れ幅が0.5mm以上の場合、下地挙動緩衝材のひび割れ部への落ち込み防止を目的として、プライマー塗布前にあらかじめひび割れ部に下地調整塗材C-1をすり込んでおく。

日本外壁防水材工業会規格 (NBKS) は、当会ホームページの「基準・規格」より入手することができます (<https://gaihekibosui.jp/kijyun.html>)。

**日本外壁防水材工業会 (NBK)**  
**外壁防水施工団体協議会 (GSK)**

編集：日本外壁防水材工業会・外壁防水施工団体協議会 共同編集  
 発行：日本外壁防水材工業会 事務局  
 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目11番8号(全アロン防水組合内)  
 TEL 03(3595)2331 FAX 03(3592) 2816